



UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて

UCS-SCU GUI は、オペレーティング システムのインストール、RAID 設定、ファームウェアの更新などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ここでは、次の内容について説明します。

- [ライセンス契約書\(3-1 ページ\)](#)
- [UCS-SCU GUI ホーム ページ\(3-1 ページ\)](#)

ライセンス契約書

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンド ユーザ ライセンス契約です。このライセンスに同意するには、[同意する (I Accept)] を選択して [次へ (Next)] をクリックします。

UCS-SCU GUI ホーム ページ

図 3-1 に UCS-SCU GUI および GUI のさまざまな要素を示し、表 3-1 に各要素の説明を示します。

図 3-1 UCS-SCU GUI

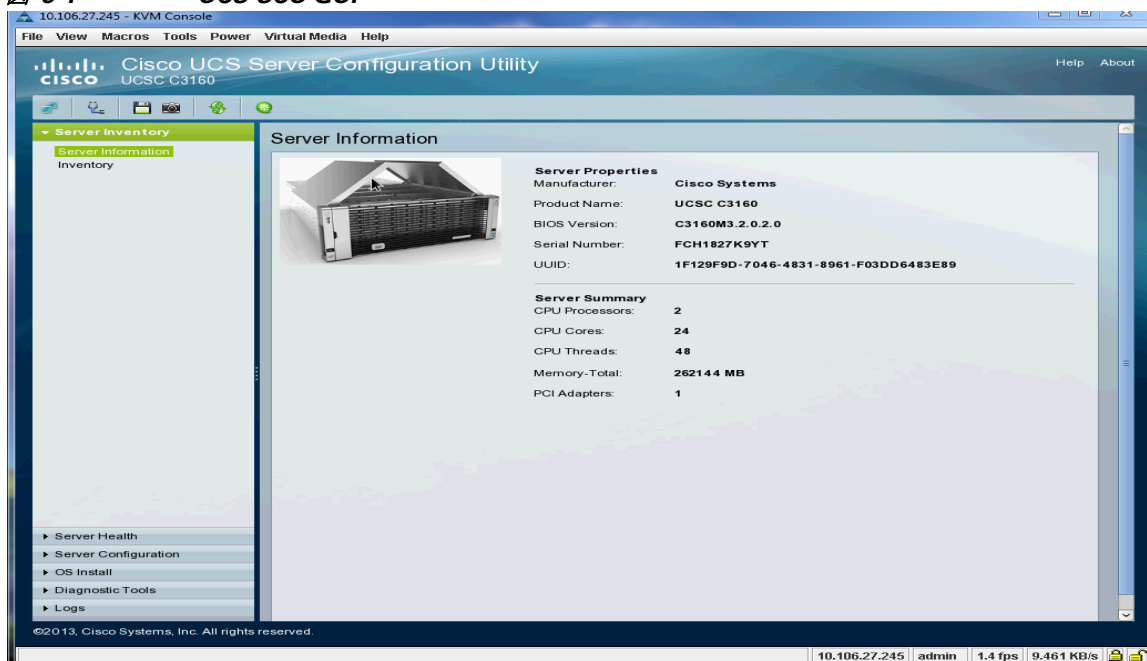


表 3-1 UCS-SCU GUI の要素

要素	説明
ナビゲーション ペイン	UCS-SCU のユーザ インターフェイスの左側に表示されます。すべてのナビゲーション ペインの要素の説明については、表 3-2を参照してください。
ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバー アイコンの説明については、を参照してください。
ヘルプ	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[コンテンツ (Content)] ペイン	GUI の右側に表示されます。[ナビゲーション (Navigation)] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツ ペインに表示されます。
[テストの要約 (Tests Summary)] ペイン	合格したテスト、キュー内のテスト、不合格だったテストの詳細が表示されます。[診断ツール (Diagnostic Tools)] が選択されている場合にのみ表示されます。

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- [ナビゲーション (Navigation)] ペイン (3-3 ページ)
- [ツールバー (Toolbar)] ペイン (3-4 ページ)

[ナビゲーション (Navigation)] ペイン

表 3-2で、[ナビゲーション (Navigation)] ペインの要素について説明します。

表 3-2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの要素

要素	説明
サーバインベントリ (Server Inventory)	<p>サーバの情報およびインベントリを表示します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> サーバ情報 (Server Information) インベントリ (Inventory) <p>サーバインベントリの詳細については、第 4 章「サーバインベントリの表示」を参照してください。</p>
サーバの状態 (Server Health)	<p>CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および Cisco IMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。</p> <p>サーバヘルスの詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。</p>
サーバの設定 (Server Configuration)	<p>サーバに取り付けられたハードドライブの RAID ボリュームを設定します。</p> <p>RAID 設定ページへのリンクが含まれています。</p> <p>サーバ設定の詳細については、第 8 章「RAID レベルの設定」を参照してください。</p>
OS インストール (OS Install)	<p>完全無人モードで RHEL、SLES、Windows、および ESXi オペレーティングシステムをインストールします。すべてのオンボードコンポーネントの最新のドライバが、オペレーティングシステムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、第 7 章「オペレーティングシステムのインストール」を参照してください。</p>
診断ツール (Diagnostic Tools)	<p>サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。</p> <p>診断ツールの詳細については、第 6 章「診断ツール」を参照してください。</p>
ログ (Logs)	<p>サーバのシステムログおよびシステムイベントログが表示されます。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> システムログ (System Logs) システムイベントログ (System Event Log) <p>ログの詳細については、第 9 章「ログの表示」を参照してください。</p>

[ツールバー (Toolbar)] ペイン

特定のタスクを実行するために使用できるすべての UCS-SCU アイコンについて説明します。



表 3-3 ツールバーの要素

ツールバー アイコン	名前	機能
	ネットワークの設定 (Network Configuration)	IP アドレス、DNS、サブネット マスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	サーバのプロープ (Probe Server)	ヘルス チェックを実行します。
	ログの保存 (Save Logs)	USB にログを保存します。
	サーバスナップショット (Server Snapshot)	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	更新 (Refresh)	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。
	ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)	同期外 RAID 1 パーティション内のディスクに書き込まれたデータを交換ディスクと同期できます。
	リブート (Reboot)	サーバを再起動します。


ここでは、ツールバーの要素について詳細に説明します。

- [ネットワークの設定 \(3-5 ページ\)](#)
- [サーバヘルスチェックの実行 \(3-6 ページ\)](#)

- ログの保存 (3-6 ページ)
- ハイパーバイザ パーティションの同期 (3-8 ページ)
- サーバのリブート (3-8 ページ)

ネットワークの設定

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ツールバーの [ネットワークの設定 (Network Configuration)] ボタンをクリックします。
[ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [ネットワークの設定 (Network Configuration)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [DHCP サーバの IP アドレス (IP Address from DHCP server)] または [静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択します。[静的 IP アドレス (Static IP Address)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [ゲートウェイ (Gateway)] フィールドに、ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
 - (任意) [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
-
-  (注) cisco.com からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合は、手順 b. に進みます。
-
- [インターネットへの直接接続 (Direct Connection to internet)] または [手動プロキシ (Manual Proxy)] を選択します。[手動プロキシ (Manual Proxy)] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [HTTP プロキシ サーバの URL (HTTP Proxy Server URL)] フィールドに、プロキシ サーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [ポート (Port)] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
 - [プロキシ サーバのユーザ名 (Proxy Server UserName)] フィールドに、プロキシ サーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [プロキシ サーバのパスワード (Proxy Server Password)] フィールドに、プロキシ サーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。
- ステップ 3** [設定 (Configure)] をクリックして設定を保存します。
-

ネットワーク設定は 1 度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- Cisco Flexible Flash にイメージを更新するとき。
- オペレーティング システムのインストール時に、ネットワーク共有または cisco.com からドライバをダウンロードするとき (▲を参照)。

サーバヘルス チェックの実行

サーバのプロブ機能では、サーバ サブシステムのヘルス チェックを実行できます。[サーバのプロブ (Probe Server)] アイコンをクリックすると、サーバヘルス チェックが開始されます。

ヘルス チェックの結果を表示するには、ナビゲーション ペインの [サーバの状態 (Server Health)] タブをクリックします。

[サーバの状態 (Server Health)] タブの詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。

ログの保存

ログの保存機能を使用してログ ファイルを保存できます。ログの保存を使用する前に、ログ ファイルを保存するための USB フラッシュ ドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

サーバスナップショットの使用

UCS SCU のユーザ インターフェイスでサーバスナップショット機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュ ドライブが接続されていることを確認します。フラッシュ ドライブが使用できないと、サーバスナップショットで作成されたログ ファイルは保存されません。

サーバスナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバコンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイック テストを実行します。サーバスナップショットを開始すると、プロセッサ、メモリ、ディスク、キャッシュ、ネットワーク インターフェイス テスト、QPI リンクおよびトラフィック、LSI バッテリ バックアップおよび RAID アダプタ テスト、チップセット テストなどの一連のクイック テストがサーバ上で実行されます。

サーバスナップショット プロセスの完了時間は、インストールされているメモリ、物理ディスクの数とサイズ、ネットワーク インターフェイスの数などのサーバ設定によって異なります。このプロセスは、30 ~ 45 分で完了する場合も、数時間かかる場合もあります。

サーバスナップショット プロセスが完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバインベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバインベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。
このフラッシュ ドライブがないと、サーバスナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。
 - ステップ 2** UCS SCU インターフェイスの [サーバスナップショット (Server Snapshot)] アイコンをクリックします。
USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 3** [はい (Yes)] をクリックして続行します。
ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するよう求められます。

- ステップ 4** ドロップダウンメニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。サーバスナップショット プロセスが開始されます。このプロセスには、最大 20 ～ 30 分かかります。サーバスナップショット プロセスの進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。このプロセスの実行中は、サーバでその他のタスクを実行できません。プロセスの実行時にいつでも、ダイアログボックスの [キャンセル (Cancel)] をクリックして、サーバスナップショット プロセスをキャンセルできます。



(注) サーバスナップショット プロセスの実行時は、KVM 接続が終了しても、プロセスが中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバスナップショット プロセスがまだ実行中かまたは実行完了していることがわかります。ただし USB フラッシュ ドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュ ドライブへの接続が失われるので、サーバスナップショット プロセスが停止します。

- ステップ 5** スナップショット プロセスが完了すると、プロセスが完了したことを示すダイアログボックス メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ログ ファイルは、USB フラッシュ ドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバスナップショット が取得された日付が含まれます。たとえば、Server_UCSC-C240-M3S_FCH1716V24S_06_28_2014.txt は 2014 年 6 月 28 日に UCS C-240 サーバ用に取得されたサーバスナップショットのログ ファイル名です。

- ステップ 6** 任意のエディタでこのファイルを開きます。



(注) 一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします。

サーバのクイック テストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバ コンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイック テストに合格しない理由は特定できません。サーバスナップショット プロセスのログ ファイルの表示中に、サーバ コンポーネントがクイック テストに合格しなかったことに気づいた場合は、[診断 ツール (Diagnostic Tools)] の下にあるクイック テスト ログを確認してください。



(注) 診断ツールの詳細については、第 6 章「診断ツール」を参照してください。

サーバスナップショット プロセスのログ ファイルには次の情報が含まれます。

- シャーシ要約
- ベースボード サマリー
- Cisco IMC サマリー
- プロセッサ サマリー
- メモリ サマリー
- ストレージ サマリー
- PCI アダプタ サマリー
- 電源サマリー
- サーバ診断クイック テストの結果

- サーバ プローブ データ
 - サーバ インベントリ データ
-

ハイパーバイザ パーティションの同期

UCS-SCU は、Cisco FlexFlash SD カードをサポートするサーバ上で、SD カード上に RAID 1 ディスクとして設定されるハイパーバイザ仮想ディスクを同期するためのオプションを提供します。この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できます。UCS-SCU は、サーバ上の SD カードの有無を検出します。

一方のメンバの SD カードスロットが破損している場合に、このオプションを使用して RAID-1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザ データを同期します。この同期を開始できるのは、2 枚のカードが検出され、RAID-1 が正常でない(一方のメンバが破損)と判断された場合だけです。



(注) この機能は C220 M4 サーバと C240 M4 サーバでは利用できません。Cisco IMC からこれらのサーバに対してこのタスクを実行できます。

ハイパーバイザ仮想ディスクを同期するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)] アイコンをクリックします。
ダイアログボックスで、ハイパーバイザ RAID を同期することを確認するよう求められます。
 - ステップ 2** [はい (Yes)] をクリックします。
同期が完了すると、プロセスの完了を示すダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 3** OK をクリックします。
ツールバーの [ハイパーバイザ同期 (HyperVisor Sync)] アイコンはグレー表示されます。
-

サーバのリブート

サーバをリブートするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [再起動 (Reboot)] アイコンをクリックします。
[再起動 (Reboot)] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 2** [はい (Yes)] をクリックしてリブートします。
サーバがリブートし、UCS-SCU GUI が再表示されます。
-